

情報発信に関する基本的考え方

1. 当事業における情報発信の基本原則

- 阿蘇の草原再生は自然環境、農畜産業、地域おこしなど多岐にわたる分野における取り組みであることから、大学・研究機関をはじめ、地元住民・農畜産農家、地元 NPO・NGO、流域住民・観光客、行政・関係機関などいろいろな人が関わり、草原再生の目標設定、再生のしくみや方法、具体的な事業実施などについて合意形成を図っていく必要がある。そのためには情報の共有化が不可欠であり、当事業における情報発信は「情報公開」を原則とする（ただし、希少種・個人情報など保護が必要な情報を除く）。
- 草原再生に直接、間接的に関わる関係者や関係機関・団体の活動内容等について、ヒアリング等により生の声が伝わるような情報発信を行い、草原再生に関する理解と参加・協力を分かりやすい形で求めていく。
- 情報の発信とともに草原関連情報や科学的データ・研究成果などの収集・蓄積を行い、そのデータに誰もが容易にアクセスでき、利活用できるような阿蘇の草原再生に関する「データ・バンク」を目指す。
- 媒体の特性を生かしながら様々な媒体による情報発信を行い、伝えたい人・層に効果的な情報伝達を行う。
- 双方向性をもった情報システムの構築により、草原再生に関わる人達の良好なコミュニケーションを形成する。

2. 情報発信の内容

- 阿蘇の草原再生の背景、経緯、趣旨
- 本事業での検討結果・討議内容
 - 懇談会・検討部会・報告会・拡大ワーキング・シンポジウム・イベント等の開催のお知らせ・討議概要・資料
- 草原に関する基礎情報、研究成果
 - 阿蘇の草原に関する基礎知識、草原 GIS データベース（草原・樹林地の分布状況、社会環境情報等に関する地図情報システム）、草原維持・管理に関する実証試験結果、草原維持管理手法における省力化技術情報、草の需要創出関連情報（バイオマス等）、牧野組合アンケート調査結果、阿蘇自然再生事業計画の内容 等
- 関連情報
 - 草原を活用した環境教育等の情報、草原保全・再生に関する関係者・関係機関・団体の取り組み内容・インタビュー結果 等

3. 情報発信の対象と手段

情報発信の対象と、対象別の媒体については、次のような方策を用いる。

	ニュースレター・ 広報（チラシ）等	パンフレット	ホームページ
地元			
流域住民・関係者			
観光客			
一般			